

平成30年度 第7回 小野申人といきいきトーク

と き	平成31年1月29日（火） 19時～20時30分
と ころ	府中市立府中明郷学園
テ ー マ	子育て・教育、地域づくり、防災
出席者	学校運営協議会委員13名 小野市長、栗根総務部長、九十九健康福祉部長、 若井建設産業部長、石川教育部長、門田学校教育課長

《子育て・教育(CS：コミュニティ・スクール)》

- ・ アントレプレナーシップ（起業家精神）の商品開発の発表があり、子どもの発表を企業に評価をしてもらった。自分たちの発想力を鍛え、企業の技術を知り、商品開発にどう生かすかを考える場になっている。
- ・ アントレプレナーシップ活動など学校で子どもたちが学ぶ中身を、地域の人にもっと知ってもらいたい。地域だけでなく企業も含めてつながりを作っていきたい。それにあわせて、子どもたちに府中の企業のことをもっと知ってもらい、子どもたちが成長して、大人になったときに、今とは違った感じ方をしてくれると思っている。
- ・ 地域や企業の人など、どんどん多くの人に関わってもらうことで、教育に深みが出ている。
- ・ 教育の素晴らしさを外にしっかり発信して、企業と教育を府中市の売りにしていくようにしたい。
- ・ 地域の祭りで子どもたちが参画し、自分たちが計画して地元貢献したという達成感と自分が習ったことを下級生に教えることで、上級生はリーダーシップを学んでいる。
- ・ 夏祭りなどで司会をするなど子どもが主体となってきている。
- ・ 公民館祭で中学生にバザーの販売をさせた。自分たちで販売したいものを決め、それにかかるお金やいくらで売ればいいのかというところまで考えさせた。経験したことがないが、やればできるということを理解したと思う。将来の仕事にも通じる。
- ・ 町内会の会議に、子どもたちが自分の考えたことを発表するために参加させてもらえないかということがあった。今までやってきていない、やったことがないことにチャレンジしていかないといけない。府中市の先頭を走っていかないといけない。
- ・ 地域の子どもたちと関わっていかうと思っているが、何ができるのかと考えていたときに絵本の読み聞かせに声を掛けてもらい、毎月一時間の読み聞かせをしている。地域の子と一緒に通学しあいさつ運動と交通指導をしている。子どもたちを毎日見ていたら、関わってくれるようになった。子どもの日々の成長を感じとれる。今やれることを探っている状態です。
- ・ 地域に根ざした文化・芸能があるので、子どもたちに世代を超えて、3世代で集まってどういうことが出来るか話し合い、継承も考えている。
- ・ 地域の方の子どものために何かしてやろうという気持ちを感じる。
- ・ 保護者のCSに対する理解度と温度差がある。子どもたちを見ても、参加への温度差

がある。理解度を高めることが必要と感じる。

- ・ 親の協力が必要と感じる。CSに関わり仕事もしないといけないが、子どものために時間を使いたい。みんながそう思ってもらいたい。

#### 《防災》

- ・ 7月の大雨が降ったときに、地域に避難所があるが、地区が孤立した。防災マップ上では、地区自体が危ないとなっている。
- ・ ハザードマップを出すときに、危険なところに対して市がしている対策も伝えてほしい。安心感もほしい。

御調川河川改修は県事業としてスピード感を持って進めているが、現実的にはもう少しかかる。上流の被災箇所は、かさ上げも含めて効果的な復旧工事を検討されている。

部長

- ・ 防災の勉強会をいきいきサロンとか、町民みんなで聞く場とかあると良い。市からの情報も重要。そして、自分で地域を知ることも大事。
- ・ 高齢者を含め、大人と子どもと一緒に防災の勉強会をしたらいい。7月の豪雨災害の体験を大人と子どもで、情報を共有する。
- ・ 他学区のCSでは、炊き出しなども含め、防災訓練をしたと聞いた。
- ・ リスクばかりだけでなく、プロを呼んで講習会を受けるとか、自分たちで回避する方法を学ばなければいけない。
- ・ 障害がある方も含めて、避難の仕方を考えてもらいたい。

#### 《その他》

- ・ 消防署のAEDの講習を受けた。公民館にAEDがないが、必要だと感じる。

AEDについては、設置する方向で検討する。

市長

#### 《最後に》

地域と学校、地域と保護者、地域と行政がつながって行って、連携を作ってください。ありがとうございました。

市長